



報道発表

平成23年8月1日
東京税関

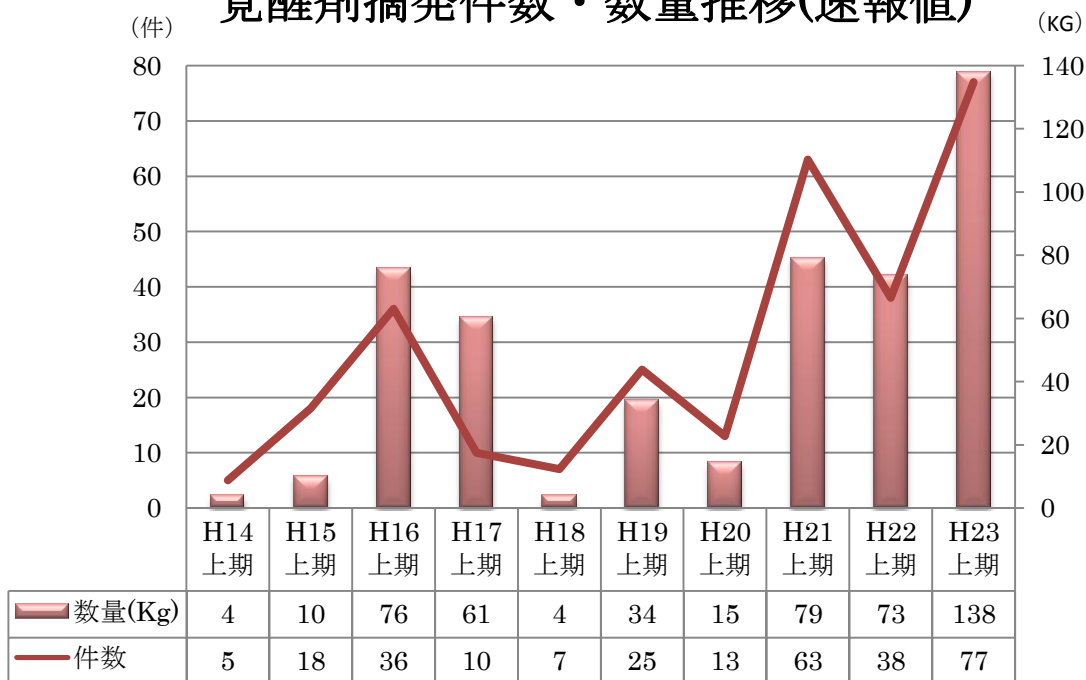
覚醒剤の摘発件数 77 件、押収量が 138kg

- ✓ 平成23年上半期における覚醒剤密輸入事犯は、過去10年間で最高を記録
- ✓ 飲み込み隠匿事犯は既に年間の過去最高を記録

～平成23年上半期の東京税関における覚醒剤密輸入事犯の摘発状況等について～

平成23年1月から6月までに東京税関において摘発した覚醒剤は77件・138kgであり、件数は前年同期と比べ2.0倍、押収量は1.9倍と大幅に増加し、件数・押収量ともに過去10年間で最高を記録（国内末端価格111億2千万円）。とりわけ航空機旅客による飲み込み隠匿事犯については、16件9.1kgと既に年間の過去最高を記録した。

過去10年東京税関における上半期 覚醒剤摘発件数・数量推移(速報値)



資料1：「東京税関における主要不正薬物摘発状況（速報値）」

1 覚醒剤密輸入事犯の概況

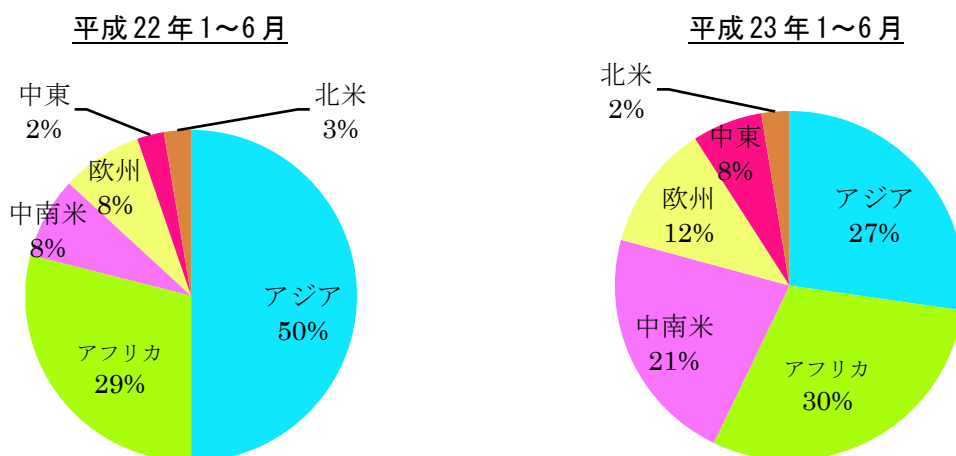
(1) 密輸入形態

密輸入形態は、航空機旅客によるものが70件・106kg（前年同期32件・64kg）、国際郵便を利用したものが5件・10kg（前年同期5件・9kg）、商業貨物によるものが2件・22kg（前年同期1件・1kg）であった。

(2) 仕出地

- 仕出地は、アフリカ (23 件・52.2kg)、アジア (21 件・43kg)、中南米 (16 件・16.2kg)、欧州 (9 件・13.9kg)、中東 (6 件・7.7kg)、北米 (2 件・5.2kg) であった。前年同期は、摘発件数の半数をアジア仕出しで占めており、仕出地のグローバル化が顕著となった。
- メキシコ仕出しとする密輸入事犯の急増。(前年同期 3 件・6.2kg→15 件・14.1kg)
- 昨年 4 月以降のアフリカ諸国を仕出しとする密輸入事犯の増加傾向は継続している。
- アフリカを仕出しとする郵便物からの初摘発。
- アフリカ諸国の仕出地としては、ベナン、ナイジェリア、セネガル等の西アフリカ諸国及び南アフリカが太宗を占めた。とりわけ、アフリカ諸国を仕出しとする航空機旅客による密輸入事犯の摘発は、21 件・30.5kg であった。(昨年 1 年間では 25 件・67.4kg)
- 西アフリカ諸国を仕出しとする密輸ルートとしては、「欧州」を経由して来日するケースが増加した。
- その他の仕出地としては、香港、タイ、マレーシア、アラブ首長国連邦等であった。

覚醒剤地域別摘発件数の割合



資料 2 : 「航空機旅客による覚醒剤密輸入事犯の主な密輸ルート (2011)」

2 覚醒剤の運び屋 (航空機旅客) 70 名に係る分析

(1) 運び屋の年齢・性別

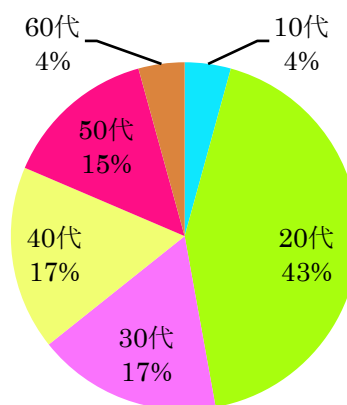
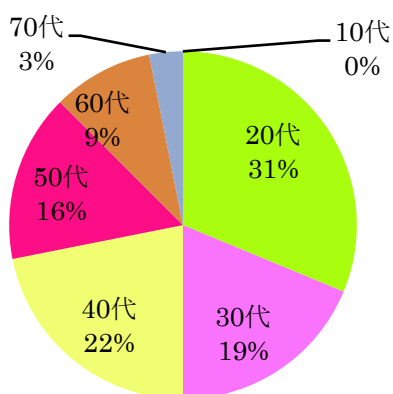
- 年齢層の多様化 (10 代 4%、20 代 43%、30 代 17%、40 代 17%、50 代 15%、60 代 4%)
- 10 代~20 代の若年層が高い割合を占めた。(47%)
- 女性の占める割合は、70 名中 22 名 (31%) と高い比率を占めた。
- 女性 22 名の内、3 名は妊婦であった。

	性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
日本人 (7人)	男		1	2	1	2			6
	女				1				1
外国人 (63人)	男	2	18	8	5	7	2		42
	女	1	11	2	5	1	1		21

運び屋の年代別割合

平成22年1～6月

平成23年1～6月



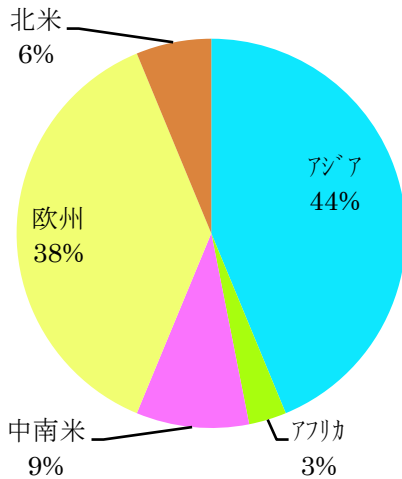
(2) 運び屋の国籍

- 日本人7人、外国人63人であり、運び屋の国籍もグローバル化が顕著であった。
- メキシコ国籍の占める割合も急増（前年同期9%→20%）
- 欧州人の占める割合が急増（前年同期38%→52%）
- アフリカと欧州の二重国籍旅券所持者が、アフリカ仕出しを隠ぺいするために欧州旅券を使用して本邦に入国したケースもあった。

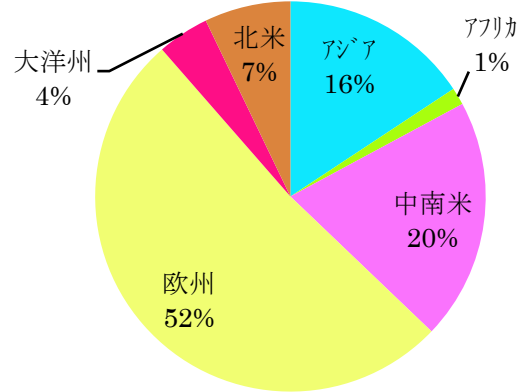
地域	国籍	人数	国籍	人数	地域	国籍	人数
欧州 (36人)	ドイツ	5	エストニア	2	アジア (4人)	香港	2
	イギリス	4	ルーマニア	2		韓国	1
	ブルガリア	3	スペイン	1		台湾	1
	ベルギー	3	チェコ	1	日本	日本	7
	ラトビア	3	ハンガリー	1	オセアニア (3人)	オーストラリア	2
	オランダ	2	フランス	1		ニュージーランド	1
	オーストリア	2	ポーランド	1	アメリカ (19人)	アメリカ	5
	スロバキア	2	リトアニア	1		メキシコ	14
	ポルトガル	2				アフリカ	ナイジェリア

運び屋の国籍地域別割合

平成22年1～6月



平成23年1～6月



(3) 隠匿手口

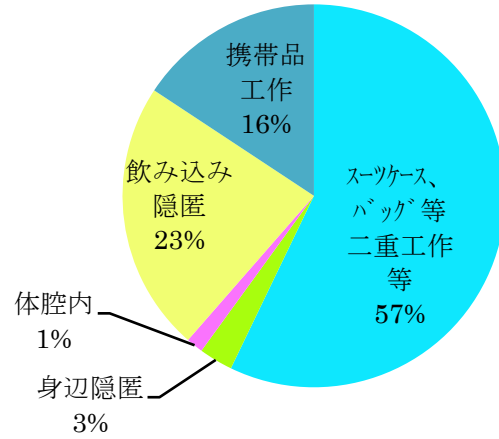
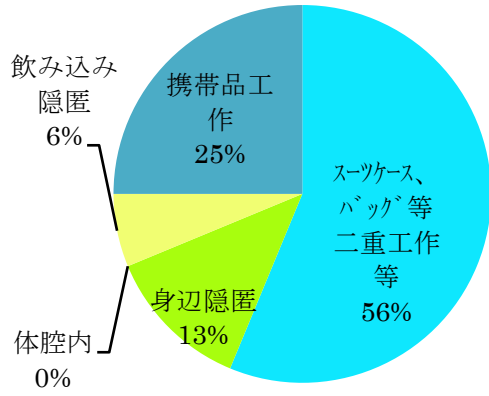
- 平成23年1月～4月は、スーツケースを二重に工作して隠匿する事案が太宗を占めたが、5月以降は飲み込み隠匿事犯が増加した。
(飲み込み隠匿事犯：前年同期2件→16件)
- メキシコ合衆国グアダハラ空港を仕出しとする若年層による飲み込み隠匿事犯の急増(メキシコ仕出し若年層事犯：前年同期0件→6件)
- 身辺隠匿事犯は減少傾向(身辺隠匿事犯：前年同期5件→2件)

隠匿具等	隠匿方法	件数	隠匿具等	隠匿方法	件数
スーツケース	二重工作	22	飲み込み	飲み込み隠匿	16
	側面型枠内	5	飲食物	粉ミルクに偽装工作	2
	取っ手及びキャリー収納部	4		酒等の瓶内	3
バッグ、カバン類	中仕切板等	2	金属製品	鉄製円柱内	1
	バッグ等の側面	6	その他	紙箱内	1
	外側ファスナー	1		カメラ及びレンズ内	1
身辺	着用靴、足に巻き付け	2		トナーカートリッジ内	1
体腔	肛門内	1		ハンガー内	1
				電子計量器内	1

運び屋の隠匿手口割合

平成22年1～6月

平成23年1～6月



★トピック 1～メキシコにおける飲み込み事犯が急増～

- ✓ 平成 23 年 1 月～6 月までの間、東京税関において摘発された覚醒剤の飲み込み隠匿事犯は、16 人 9.1kg（1 人当たり平均 568.75g）であった。過去 10 年間の覚醒剤における 1 回当たり最大飲み込み重量は、平成 22 年 5 月、成田税関支署において摘発されたナイジェリア人男性による密輸入事犯で、1,264.87g（80 個）。また、同様に過去 10 年間の覚醒剤における 1 人当たりの平均飲み込み重量は、500.00g であった。最年長は 60 歳、最年少は 17 歳であった。
- ✓ 特に、メキシコ合衆国グアダラハラ空港からメキシコ人運び屋が飲み込んで密輸入する事犯が激増した。（メキシコ来飲み込み隠匿事犯：平成 22 年 1 件・0.7kg→7 件・4.0kg）
- ✓ 飲み込み隠匿したメキシコ人 7 人は、全員がメキシコ合衆国グアダラハラ市内において出発日の前日から飲み込みを開始し、同市所在の空港から出国し、同国ティファナ空港を経由して成田国際空港に到着している。このため、覚醒剤飲み込みから到着まで長時間に亘るため、経由地のティファナで腹痛のため一旦排出したものを再度飲み込んだり、本邦に到着後、病院へ搬送され手術したケースもあった。



☆トピック 2～女性の運び屋が占める割合の増加～

平成 23 年 1 月～6 月までの間、覚醒剤の運び屋（航空機旅客）については、全 70 人のうち、女性が 22 人と高い割合を占めた。女性を運び屋に仕立てるものには、ラブコネクションを利用したケース等があった。

- ✓ フィアンセの頼みごと～外国人女性～
- ✓ 遠距離恋愛の結果は～日本人女性～
- ✓ 妊婦を運び屋に！！～外国人女性～

☆トピック 3～震災を利用！～

震災後、税関検査において「被災者を救済する。家族の安否を確認しに来た。」等を来日理由にして税関検査を免れようとするケースがあった。

【ケース 1】4 月入国の外国人女性

税関検査において、「被災者を救済するために来日した」旨を申し立てた。同女は、密輸依頼人から「税関検査の際に来日目的を被災者を救済するために来日したと言いなさいと指示があった」旨を供述している。

【ケース 2】4 月入国の外国人男性

税関検査において、「兄が被災地近くに住んでおり、両親が兄のことを心配していたことから、兄の安否確認のため来日した。」と答えた。